

出典「食に関する指導の手引き—第二次改訂版—」  
(文部科学省、平成 31 年 3 月)

4 窒息事故防止

過去には、パンの早食いや、白玉団子やプラムを咀嚼せず誤って飲み込んだことによる児童生徒の窒息事故が発生しています。特に、水分が少ないものや思いがけず飲み込んでしまう可能性がある丸い形状のものは、咽頭部に詰まる危険性が高いため十分な注意が必要です。

ア 未然防止のポイント

- ・ 食べ物は食べやすい大きさにして、よく噛んで食べるよう指導します。
- ・ 早食いは危険であることを指導します。
- ・ 給食の際は、学級担任等が注意深く児童生徒の様子を観察します。
- ・ 咀嚼及び嚥下の能力には個人差があるので、個別の対応が必要な児童生徒については、全教職員の間で共通理解を図ります。
- ・ 特別な支援を要する児童生徒については、食事中に必ず教職員が付き添い、目を離さないようにします。

イ 発生時対応の留意点

- ・ すぐに他の教職員を呼び、119 番通報を依頼します。救急隊が到着するまでの間は、詰まったものの除去を試みます。



図 1 背部叩打法<sup>こうだ</sup>

立て膝で太ももがうつぶせにした子供のみぞおちを圧迫するようにして、頭を低くして、背中の真ん中を平手で何度も連続して叩きます。なお、腹部臓器を傷付けないよう力を加減します。



図 2 腹部突き上げ法

後ろから両腕を回し、みぞおちの下で片方の手を握り拳にして、腹部を上方へ圧迫します。